



M.M.Honcho Newsletter

【2月号】令和6年1月31日発行



繋がり価値

校長 小正 和彦

年度末に向かい、子どもたちの活動も本年度のまとめの時期に入っています。どの学年、学級でも、この一年の自分自身や自分たちの成長とさらにその先に向かう思いを確認する姿がたくさん見られています。

1/27(土)に「横浜市ESD推進コンソーシアム交流報告会」が開催されました。これは横浜市立の学校でESDに積極的に取り組んでいる推進校が集まって交流を行うイベントですが、ここに4年2組の児童6名が本校の代表として参加しました。第1部では、参加した小学校、中学校、高校がそれぞれのブースで活動をプレゼンし意見交換しました。4年2組の児童は、本年度取り組んできたアップサイクルクレヨンについて、その目的や工夫、新作のコーヒー豆を材料にしたクレヨンを紹介しました。その後の第2部では、違う学校の児童生徒とのグループワークがあり、それぞれの活動をベースに、いろいろな人との連携・協働の価値について話し合いをしました。参加した児童生徒の中では一番下の学年でしたが、どのグループでもしっかり中学生、高校生と意見交換をする姿にとっても嬉しく、誇らしく思いました。今回参加した児童に限らず、本校の多くの子どもたちはそれぞれの活動について自分ごととして主体的に取り組んできており、そのためにどこでも、誰に対しても、しっかりと伝えられる姿が見られることは本当に嬉しく思います。

このグループワークで個人的にとっても感慨深い場面がありました。あるグループのファシリテーターとして進行をしていた高校生が私の前任校の卒業生で、そこで取り組んだESD活動がその後深く印象に残り、今の高校ではESD活動のリーダ

ーとして活躍していることを引率の先生から伺いました。小学校でのESDとの出会いがそこで終わることなく、それをきっかけにその後も個人の中で育ち、文字通りこれからの持続可能な社会の創り手、そして担い手として育っている姿を見ることができました。さらに、そのグループに本校の4年生が一緒になり、よりよい未来のために意見交換をしているという場面がありました。そこには個人内での繋がりだけでなく、地域、世代を越えての繋がりがありました。改めて、子どもの成長と社会創り、さらにそこにおける学校の機能、価値を感じた嬉しい時間でした。

会の最後には、本校の学校運営協議会委員でもある東洋大学の米原あき先生から講評がありました。地域、学年を越えて、様々な相手との連携・協働の価値について真剣に話し合う子どもたちの姿への高い評価がありました。さらにアインシュタインの「問題は発生したのと同じ次元では解決できない」という言葉を引用して、今の社会の課題を解決していくためには、今の知識だけでは無理で、多様な意見や考えが必要であり、子どもたちこそがその主体となっていくことへの期待が伝えられました。参加した子どもたちにとって、このイベントへの参加がゴールではなく、これからの活動への大きなモチベーションとなる、とても有意義な機会となりました。

本年度も残り2か月、いろいろな機会を通して、一人ひとりの子どもにとって次年度以降に繋がる機会を大切に積み重ねていきたいと思えます。ご家庭、地域でのお声掛けもよろしくお願いいたします。

《専任より》

「聴く」を研ぎ澄まし、ともに「考える」



人との関わりの中でコミュニケーションは必要不可欠です。学校という集団生活の場では、自分と違った様々な性格・考え方の人がたくさんいます。そういう多様な考えや価値観を知り、どう関わっていくかを考えることは、これからの社会を生き抜くうえで大切な力です。「自分の思いを伝える」「相手の思いを知る」どちらも大事です。子どもが悩んだとき、わたしたち大人ができることは何か。まずはしっかり話や思いを聴き、受け止める。どうしていくのがよいか、子どもと一緒に考える。大人が全てを与えるのではなく、ともに考えていくことが大切だと思います。引き続き、家庭と学校が連携して、健やかな成長を支えていきたいと思えます。不安や悩みがありましたら、担任・児童支援専任・養護教諭などに気軽にご相談ください。

児童支援専任 赤津 淳子